

レセ研通信

～データ分析で見えたこと～

①

【執筆】（一社）保険者機能を推進する会
レセプト・健診データ分析研究会このコーナーでは、保険者機能を推進する
会レセプト・健診データ分析研究会の活動
で得られた知見を隔月で紹介します。

分析ポイント①

●「腹囲－2cm・体重－2kg」の達成は、
体型による差はないのか？

- ・BMIが高いほど「腹囲－2cm・体重－2kg」を達成しやすいことが確認された（太っている人ほど達成しやすい！）
- ・同じBMIでも積極的支援実施者は動機づけ支援実施者より「腹囲－2cm・体重－2kg」を達成している割合が大きい（フォローが長いから?!）

「腹囲－2cm・体重－2kg」の
効果検証

（一社）保険者機能を推進する会レセプト・健診データ分析研究会（通称：レセ研）では、2023年度から研究会参加全32健保組合に対して「特定保健指導効果分析ツール（自健保任意分析ツール）」を提供し、自健保組合のデータをもとにさまざまな分析を可能としました。研究会では4つのテーマ（「特保効果分析」「問診分析」「歯科分析」「基礎知識を学ぼう」）でグループワークを行ってきました。「特保効果分析グループ」では、2024年度から新たに特定保健指導のアウトカム評価として「積極的支援」実施者で中間面談の際に腹囲－2cm、体重－2kgを達成した場合、その時点で180 ptが付与され特定保健指導を終了できる」が追加されたことへの対応として、「腹囲－2cm・体重－2kg」の実態や達成者の翌年度健診結果への効果について確認したうえで、我々保険者がどう取り組むべきかの検討を行いました。

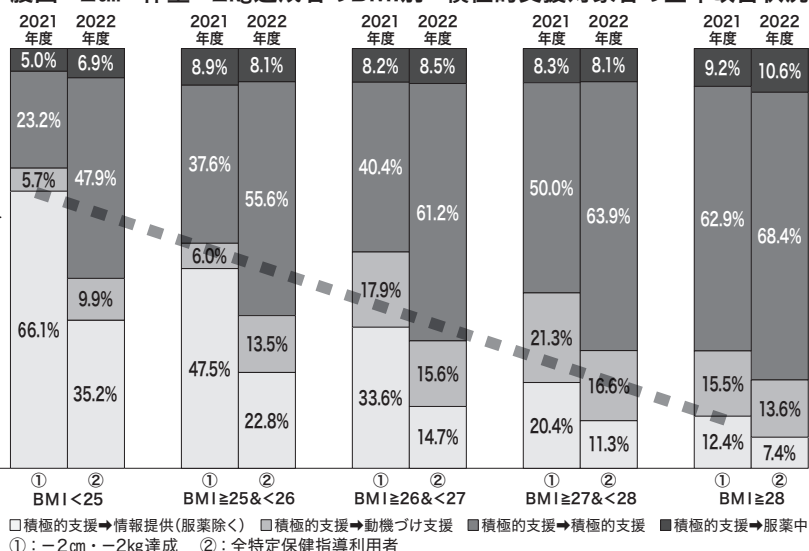
今回の分析では、参加12健保組合のデータを集めて、2021年度に特定保健指導を実施した男性のデータ約18,000件を分析対象とし、BMI階層別に評価することとしました。

分析ポイント②

●「腹囲－2cm・体重－2kg」の達成は翌年の特定保健指導の階層化にどれくらい効果があるか？

- ・どのBMI階層でも、『腹囲－2cm・体重－2kg』達成者の翌年の特定保健指導対象からの脱出率は、特定保健指導を受けた者全体の脱出率に比べて明らかに高かった。（「腹囲－2cm・体重－2kg」は階層改善に効果がある）
- ・低いBMI階層ほど、『腹囲－2cm・体重－2kg』達成者の翌年の階層改善度は高い（→非肥満へ移行しやすいから?!）

腹囲－2cm・体重－2kg達成者のBMI別・積極的支援対象者の翌年改善状況



アドバイザーから一言／

真のアウトカムは「特定保健指導対象からの脱出」

東京大学未来ビジョンセンターデータヘルス研究ユニット特任准教授 井出 博生 先生

第4期特定健診・特定保健指導の注目点はご存じのとおり「腹囲－2cm、体重－2kg」を指標とするアウトカム評価が導入されたことです。新しい制度で今後特定保健指導のやり方が変わる可能性も高いですが、実態の検討には過去データの分析も十分有用です。

いわれてみれば、もともとのBMIが高い人と低い人では、腹囲－2cm、体重－2kgを達成するたいへんさは違うでしょう。しかし、BMIが高い人を中心に特定保健指導の勧奨を行うほうが、健保組合の成績の面で得だという

わけではありません。

より大切なアウトカムは特定保健指導の対象からの脱出であり、BMIが高い人の脱出率は低いのです。この分析からいえる、より建設的なことは、アウトカム評価の基準を対象者のBMIに応じて設定する制度に改善することではないでしょうか。

今回は、さらに特定保健指導の真のアウトカムに近づくために、腹囲－2cm・体重－2kgのアウトカムの達成で検査値がどう変化するかを紹介してもらいます。